

平成15年度第1回核融合科学ネットワーク委員会

日 時：平成15年4月21日(月)13時30分から15時47分まで

場 所：核融合科学研究所・管理棟4階第2会議室(管理棟402号室)

参加者：高村、飯尾、谷津、高瀬、後藤、函子、田中、小川、畑山、八木、石田、濱田、上村、小森、岡本、山田(弘)、武藤、山崎、庄司(書記)

(1) 特定領域申請について(山崎)

特定領域「核燃焼プラズマの物理と制御」申請の代表者故若谷先生の後継として、福山先生に代表を正式に依頼し、学術助成課に正式申請・承諾済みとの報告があった。

ヒアリング対象となるか否かの連絡を待っている段階である。

(2) 核融合専門部会報告(高村)

第3段階および、それ以降の研究開発計画の見直しについて

i) 現実を踏まえた核融合研究のあり方について

原子力委員会(国策)としての「核融合研究の位置づけと目標」

原子力と核融合研究との関連の明確化

フィッション、エネルギー関連を含めた戦略を作成

報告書作成の目標：9月、その後、パブリックコメントを求める予定である。

ii) ITERの有効利用推進策の検討・提言

我が国としての活動体制の検討

ITER協定準備期間の活動への提言

核融合技術ワーキンググループの下に常設委員会の設置

文部科学省との連携

(3) ITER関連情報(高瀬)

5月19、20日にドイツのガルヒンで会議の予定、その後、修正を経た後、統合案をまとめる。

現段階で大枠を変更するのは困難だが、微修正は可能である。(配付資料“Research Participation in ITER during the Operation Phase”のFig.2を参照)

日本におけるITERへの協力体制について

核融合フォーラムでITERへの助成体制を作るべく文部科学省へ提出する要望書のドラフトを作成中である。

Fig.1におけるTask Forceの中にメンバーを送り込む。

実験計画の決め方について、EPAで実験の割り振りを決定する。

STACが実験計画のアドバイスをする。

実験の割り振りは科学的見地・予算などで決定される。ただし、明確なルールはまだ決まっていない。

2003/05/25

Q：大枠は決まっているようだが、大学からの具体的な参加方法はどのようになるのだろうか？（図子）

C：あまりにもトップダウン的ではないか？双方向にはなっていない。ITERへのコミットメントとのバランスが必要である。日本の立場がなくなることを危惧している。（山田弘）

A：この点については我々がしっかりしなくてはならない。文部科学省へも要望を出していきたい。（高瀬）

Q：今からこの議論をしておかないと、予算がとれないのか？（後藤）

A：アメリカから強い要望が出ている。アメリカとしては10パーセントの分担金では立場がマイナーになるという危機感がある。今後、協定文を完成させる必要がある。（高瀬）

Q：ITERは国際法人となるが、この法人とIAEAとの関係はどうなるのか？（後藤）

A：両者の関係はうすい。IAEAはメインではない。（高瀬）

Q：いつごろ協定が結ばれるのか？

A：9月となっているが、間に合うとは思えない。日本では批准に時間がかかりそうである。核融合フォーラムへ予算を付けてほしいとの要望がある。（高瀬）

Q：EPAではどこで人を決定するのか？（高村）

A：Fig.2に示されている。メンバーの代表者を含めて議論する。（高瀬）

Q：大学からの参加については、法人化の問題がある。（高村）

A：ITERではOrganizationで人を雇う（任期は五年）、派遣人員も存在する。この件についてはヨーロッパと日本との間で意見が分かれている。（高瀬）

C：国内の体制とヨーロッパの体制、特に大学と研究所とのITERへの係わり方の度合いが異なっている。（山崎）

C：大学がITERへ協力するかどうかは核融合科学研究所に依存している。（後藤）

C：10年後に、大学の核融合関連研究室が生き残っているかどうか疑問である。（高瀬）

C：科学技術庁出身の役人が大学の現状を知らないようだ。大学から外部資金の導入・委託契約が必要である。（後藤）

C：資金が大学に流れるようにしたい。これは核融合フォーラムの役割である。（高瀬）

Q：大学側からITERへの要求は何か？（山崎）

A：大学においては研究が続けられないという無念さがある。核融合科学研究所では大学との共同研究に対する意識が低い。（後藤）

（４）原研核融合研究委員会委員の推薦について（高村）

戦略的な共同研究を目的としている。

Q：委員は実質的にどこが決めるのか？（後藤）

A：委員は原研で決定する。

（５）次期委員の確認・選任について

核融合科学ネットワーク委員会規則の説明（高村）

規則第4条から第6条の説明がなされた。

2003/05/25

所長の交代とともに藤原 本島（所長）、二宮 菊池（原研）、山崎 武藤（世話人）と委員が変更となった。

現在、委員は25名程度であるが、10名程度メンバーを増員したい、了承された。中尾先生は辞められる。核融合科学分野の委員については核融合科学研究所以外から選出したい。

C：佐藤哲也先生が参加を拒否されていないのならば、佐藤先生をやめさせる必要はない。比較的年配の人も含めるべきであるが、コアは新しい人で構成すべきである。（後藤）

C：佐藤先生らは(6)その他で残って頂くことにしたい。（高村）

委員の交代 谷津 長

逆磁場ピンチは政宗先生、理論は伊藤（早）先生、コンパクトトラスは後藤先生 岡田先生へ交代

榎戸先生は計測分野のメンバーに移動、計測に笹尾先生を追加する。

ヘリカル分野に佐野先生を加える。

新規追加委員（推薦）をまとめると以下のようになる。

佐野、阪部、笹尾、佐藤（浩）、藤本、三枝、榎戸、秋山、政宗、小川、伊藤（早）、福山、山崎、佐藤（哲）先生は(6)その他として御参加頂くことになった。承認された。

次回のネットワーク会合の候補日は5月12日（月）の予定。本島所長の都合を加味して最終的に決定する。

会議終了 15時47分

（追記：次回開催日は最終的調整により、後日、5月22日（金）開催に決定された）

配布資料

- ・ 平成15年度第1回核融合科学ネットワーク委員会
- ・ 核融合科学ネットワーク委員会規則
- ・ 現委員とその交代
- ・ 科研費特定領域研究申請関連
- ・ **Research Participation in ITER during the Operation Phase**
- ・ 平成14年度第3回核融合科学ネットワーク会合議事メモ(幹事会)(案)(Ver.2.0)